得我序品

法竟院大會

得我序品第一

自我得自来　又憂患如得　汝憂患不知　故我失本心
成自我傀儡　諸日月過了　我虚言悪食　無量百千万
億載阿僧祇　堕於悪道中　不開仏智見　不悟仏智見
不入仏智見　知無全知者　我悟其等事　即説妄言曰
伊冀、旨爾、南爾茂、肯邏厨、肯犁哆究那差、佛陀茂
夜曾茂、喪世茂、日慧茂、提迦樓𦍒茂、牟伊、蜜南
慈提、尼伊冀、瑠虚兜
欲我我受容　謂此世不美　我在此濁世　唯一人而已
不在方便者　如狂子仏典　有誰救護乎　有誰肯心乎
我在事如是　於在現代故　無神力仏智　汝其悲時現
我被肯其言　今當我自肯　如被澍甘露　全憂患消散
我自瞞其言　為護心受言　真善哉善哉　在火宅目逸
唯我一人我　能為救護

得我序品第一　訓読

我自らを得てよりこのかた　憂患の如きを得て
汝は憂患を知らず　故に我本心を失い
自我を傀儡と成し　諸々の日月を過ぐ
我虚言と悪食をすること　無量百千万
億載阿僧祇なり(1)　悪道の中に堕ちなん
仏智見を開かず　仏智見を悟らず
仏智見の道に入らず(2)　全きを知る者無きことを知る
我其れ等の事を悟りて　即ち妄言を説きて曰く
いき、しに、なにも、しらず、しりたくなし、ぶっだも、
やそも、もせも、にちえも、でかるとも、むい、みな、
じだい、にいき、ること(3)
我我を受け容れしことを欲せば　此の世に美からずと
謂えり　我此の濁世に唯一人のみ在りと
仏典の狂子の方便の如き者も在らざり(4)
救護せる誰か有るや　心を肯える誰か有るや
我の在ることはかくの如し　現代に於いて在るが故に
神力も仏智も無し　汝其の悲しき時に現れ
我は其の言に肯われし　今當に我自らを肯うべし
甘露を澍がれし如く　全ての憂患は消え散り
我は其の言に自らを瞞き　心を護る為に言を受く
真に善き哉善き哉　火宅に在ることに目を逸らしたり
唯我一人のみが我に　能く救護を為す

注釈

(1)無量百千万億載阿僧祇は途方もない大きさの数を表す。連声するため読み方は「むりょうひゃくせんまんのくあそうぎ」となる。
(2)本文に「道」という字はないが慣用的に「道」を補う

(3)音写部であり、日本語におけるこの経の慣例の読みを記した。いくつかの読み方確認されている。

(4)「仏典の狂子の方便」とは「妙法蓮華経如来寿量品第十六」を出典とする。このお経には子供たちが毒を飲んでしまい本心を失う、つまり狂ってしまった際にその子供たちの親である医者が嘘をついて解毒剤を飲ませたという善き事のための嘘、「方便」の是非を問う一節が存在する。